

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	YH	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	4 年	派遣国	ドイツ
派遣大学	ゲーテ大学（社会科学部）		
期 間	2025 年 9 月 3 日 ～ 2026 年 7 月 25 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他（ ）					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他（ ）					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約（ 50,000 ）円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	（ 徒歩 ）で、約（ 25 ）分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	約 70,000 円	
学用品購入費	約 0 円	
交通費	約 15,000 円	
交際費	約 40,000 円	
その他	約 40,000 円	
合計	170,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

大学や寮の周辺など、一般的な居住・学生エリアは比較的安全です。
 ただ中央駅周辺は、薬物中毒者が多いため、特に夜間は注意が必要です。
 人種差別は、留学中に一度も経験しなかったため、心配する必要はないと思います。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学／その他（ ）		
加入期間	（ 12 ）ヶ月間	保険料	（ 125,230 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	TH Public Health Insurance		
加入期間	（ 12 ）ヶ月間	保険料	（ 約 300,000 ）円

4. 滞在都市についての情報

フランクフルトは、ドイツ西部のヘッセン州に位置するドイツ有数の国際都市です。人口は約 80 万人で、ドイツ国内でも有数の大都市です。ドイツの金融の中心地として知られ、欧州中央銀行（ECB）やドイツ連邦銀行の本部が置かれているほか、多くの金融機関や企業が集まっています。また、フランクフルト空港はヨーロッパ有数の国際空港であり、鉄道網も充実しているため、ドイツ国内だけでなくヨーロッパ各地へのアクセスにも優れています。

一方で、フランクフルトは金融都市としての近代的な側面だけでなく、歴史的・文化的な魅力も持っています。旧市街には、レーマー広場やフランクフルト大聖堂などの観光名所があり、ドイツを代表する文豪ゲーテの生家もあります。また、マイン川沿いには多くの美術館や博物館が集まっています。

フランクフルトは、金融やビジネスの中心地であると同時に、歴史や文化、観光、国際交流などさまざまな魅力を持つ都市です。伝統的なドイツの街並みと現代的な高層ビルが共存しており、ドイツの中でも特に国際色豊かで活気のある都市の一つです。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ゲーテ大学	所在地	フランクフルト
最寄空港	フランクフルト国際空港	空港からの距離	約 15 キロ
空港⇄大学	(地下鉄→バス→徒歩) *移動手段		
学生数	約 4 万人	留学生数	約 7000 人
学部	法学部 経済・経営学部 社会科学部 教育科学部 心理学・スポーツ科学部 プロテスタント神学部 カトリック神学部 哲学・歴史学部 言語・文化学部 現代言語・文学部 地球科学・地理学部 情報科学・数学部 物理学部 生化学・化学・薬学部 生物科学部 医学部 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	社会科学部 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～ (2) 月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	1 限	1 限	1 限	1 限	1 限
	2 限 ドイツ語授業	2 限 講義	2 限	2 限 ドイツ語授業	2 限
午後	3 限	3 限	3 限	3 限 講義	3 限
	4 限	4 限	4 限 講義	4 限	4 限
	5 限	5 限	5 限	5 限	5 限

② (4) 月～ (7) 月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	1 限	1 限	1 限	1 限	1 限
	2 限	2 限	2 限 講義	2 限 ドイツ語学習	2 限 講義
午後	3 限	3 限 講義	3 限	3 限	3 限
	4 限	4 限 ドイツ語学習	4 限	4 限	4 限
	5 限	5 限	5 限	5 限	5 限

3. 履修内容

科目	DIA-German Intensive Course for exchange students		
履修期間	9 月のみ	単位数	3ECTS
授業内容／形態	一日 3 時間、週 5 日、三週間で基本的なドイツ語の単語や文法を学ぶ講義。主に、先生がスライドを使って進める一斉授業。まれにグループラーニング。		
成績	秀		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	AKADEMI-A German Language Course		
履修期間	10 月～2 月	単位数	6ECTS
授業内容／形態	一日 2 時間、週 2 日、初歩的なドイツ語の単語や文法を学ぶ。先生が授業内容に関するドイツ語の質問を生徒一人一人にしていく参加型の授業。		
成績	優		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	The Role of Economic Resources in Representative Systems		
履修期間	10 月～2 月	単位数	3ECTS
授業内容／形態	世界の経済資源が各国の議会代表制においてどのような影響を与えているかについて学ぶセミナー。生徒が2グループに分けられて、講義前に各グループで決められている論文を読んでき、そして、その論文を読んだうえで質問を3つ用意してきて、その論文の内容や質問に関して授業内でディスカッションを行う授業。		
成績	成績なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Introduction to Political Theory		
履修期間	10 月～2 月	単位数	3ECTS
授業内容／形態	政治理論についての入門的な内容であるホッブズやルソーの考え方など、政治学を学ぶ上で必要不可欠な理論や考え方について学ぶ。基本的に教授がスライドを用いて講義を行う一斉授業。		
成績	成績なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	The physicality of Workplaces in historical perspective		
履修期間	10 月～2 月	単位数	3ECTS
授業内容／形態	今までと過去の職場はどのように機能しているのかを論文から学び、その後どのように現代の職場へと変わったかを、フランクフルト内の実際の職場を見学することを通して学ぶセミナー。		
成績	成績なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	It's a match?! What citizens want from democracy – and what they get.		
履修期間	4 月から 7 月	単位数	3ECTS
授業内容／形態	市民が政治に対して求めていることと実際に政治から受け取っているものが、どれだけ一致しているかについて学ぶセミナー。生徒が 2 グループに分けられて、授業前に各グループで決められている論文を読んでき。そして、その論文を読んだうえで質問を 3 つ用意してきて、その論文の内容や質問に関して授業内でディスカッションを行う授業。		
成績	成績なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Causes and consequences of political efficacy		
履修期間	4 月から 7 月	単位数	3ECTS
授業内容／形態	政治的有効性感覚の基礎的な内容について学ぶセミナー。個人の有効性の評価、政治プロセスをどの程度理解し影響を与えられるかの認識と、国家や政治エリートの応答性に対する態度、政策に実装する意欲があるかという認識の、二つの認識の原因と結果について話し、なぜそのような認識が社会構造的な立場や移民背景によって異なるのかを学ぶ。各授業前に決められている論文を 2 本読んでくる。そして、毎週 1 グループがその論文についてプレゼンテーションし、その内容について議論を行う。		
成績	成績なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

全体を通して、自身が卒論に向けて取り組みたい分野に関する知識を増やすことができ、今までの人生で無意識に大事にしてきていて、これからも大切にしていきたい自身の軸に気づくことができた留学生活でした。

まず、この留学は今までの大学生活の中で一番勉強したと自信を持って言える一年間でした。ドイツでの学習は、授業で扱う論文を授業前に読んで自身の意見を準備したり、授業内で聞き取ることができなかったところを復習したりするなど、日本の大学と比べて授業外に必要な学習が多くあったためです。その結果、英語で論文を読むスピードが向上したのはもちろん、その論文をただ読む読者になるのではなく、そこからどう考えるのか、そして、卒論を含め自身の研究にどう生かすことができるのか考える癖をつけることができました。今までの大学生活は授業の内容をただ身に着けるような姿勢になっていましたが、留学を通して自分も大学にいる一人の研究者であるという認識を持つことができました。

具体的に留学中に学習した内容としては、とくに「市民が求めていることと実際の政治との一致性」や「どのくらい自身が政治に影響を与えているかを判断する指標である、政治的有効性感覚」などについて、論文から、そして、授業に参加していた学生から学びました。授業に参加していた学生は、日本と同じように投票率が下がっている国から、逆に上がっているような国まで、異なる状況の国から来ていました。これらの国から見た、市民と実際の政治との一致性や政治的有効性感覚に対しての考えを知り、逆に日本の視点からの考えも伝えることができました。これらの学びは、私が興味を持っている「どうして人々は選挙に行かないのか、どうすれば選挙に行くのか」というテーマの新しいアプローチの方法を発見することにもつながりました。

そして、今までの人生で無意識に大事にしてきていて、これからも大切にしていきたい自分の軸として、「どんな出会いにも意味があると考え、そのつながりを切らさない」ということを認識することができました。当たり前に大事な事のように思えますが、新しい出会いを生むことは簡単でも、その出会いを維持していくこと、そして、一度切れてしまった繋がりを戻すことの難しさを留学中に特に実感しました。留学生活では、本当にたくさんの国からの学生と出会いましたが、実際にそのつながりを留学生活中に維持できたのはほんの一握りで、帰国後にさらに維持していくことの難しさを現在進行形で感じています。さらに、留学中には日本に居る人とのつながりが希薄になってしまったことも感じました。今までも、なんとなく過去関わりのあった人と再会するなどしていましたが、新しい出会いを広げることよりも、一度生まれたつながりを重要視するということを、これからの自身の明確な軸としたいことに気づくことができました。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

この留学の経験を、卒論執筆と就職活動の二つに生かしたいと考えています。

卒論執筆に関しては、現在興味を持っている「どうして人々は選挙に行かないのか、どうすれば選挙に行くのか」というテーマに対して、今回の留学で学んだことを新たなアプローチとして活かしていきたいと考えています。今までは選挙制度や投票環境という要素に目を向けていましたが、有権者の意識や認識という側面にも目を向けていきます。

そして、この留学の当初の目的としていた「自分を確立する」ことはできたと感じており、それを就職活動にも生かしたいと考えています。具体的には、留学を通して自身がこれから大切にしていきたいと思う軸に気づき、将来のキャリアとして「自身の活躍を通じて、世界における日本の価値を高めたい」という自身の思いに気づくことができたので、それを就職活動で伝えていきたいと思っています。留学で気づくことができた自身の軸と就活の軸について、経験を踏まえて企業に伝え、自身の志望する職業に就けるように活用します。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生に向けてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

英語が第一言語ではない国での留学を、プログラム言語を英語にして志望しようと考えている人は、今すぐにでも現地の第一言語の勉強をしたほうが良いと思います。例えばフランクフルトは国際都市でほとんどの人が英語を話せますが、それでもドイツという国にリスペクトをもってドイツ語を多少話せる状態で留学した方がよいと思います。さらに、フランクフルトではドイツ語ができなくても生活はできますが、少しでも話せると留学でできることの幅が広がるので、英語の勉強の前にまず現地の第一言語をある程度できる状態にしておくべきだと思います。そのうえで、もちろん英語ができないと何もできないので、英語も頑張ってください。

また、横浜市立大学に来ている留学生をサポートするバディプログラムにも留学前に一度参加しておくとういと思います。日本に来た留学生をサポートすることで、まず英語を話すハードルが下がり、さらに留学生と関わるうえでこれから自分になる「留学生側の視点」を先に知ることができるからです。また、自分がこれから行くことになる国についても知ることができるかもしれません。そして、自身の留学後にもう一度バディプログラムに参加すれば、自身の留学経験を生かしてより良いサポートができるようになっており、留学後に英語を忘れてしまうことも防げます。